

第 1 回 館山市議会定例会会議録  
(第 4 号)



1 昭和60年3月11日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 神田 守隆  
3番 山中金治郎  
5番 川名 正二  
7番 榎本 春光  
12番 石井 謀  
14番 伊藤幸太郎  
16番 松下 正己  
19番 黒川 平治  
21番 吉田勇治郎  
23番 伊賀 多朗  
25番 五十嵐 昇  
27番 安西 益男

2番 田沢 勝信  
4番 日下 君敏  
6番 生稲 隆  
10番 横溝 功  
13番 石井 昌治  
15番 渡辺 昭夫  
17番 近藤 好雄  
20番 石井 武敏  
22番 林 豊  
24番 流山源次郎  
26番 石井 正  
28番 安澤 徳順

1 欠席議員 3名

8番 小宮 利夫  
11番 飯田 義男

9番 福原 勤

1 出席説明員

市長 半澤 良一  
収入役 山田 俊康  
総務部長 川畑喜代志  
経済部長 吉岡 政雄  
教育委員会委員長 杉村 芳枝

助役 小倉 澄男  
市長公室長 斉藤 武男  
民生部長 鈴木 力  
水道課長 石井 敏夫  
教育委員会教育長 福原 修

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第4号)

昭和60年3月11日午前10時開議

日程第1 議案第9号 安房郡市広域市町村圏事務組合同規約の一部を  
改正する規約の制定に関する協議について

( 議案第10号 国民健康保険山武郡南病院組合を千葉県市町

			村公平委員会の共同設置団体から除くこと及び千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について
日程第2	議案第11号		非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第12号		館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第13号		字の区域及び名称の変更について
	議案第14号		館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第15号		館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第16号		館山市洲崎御手洗山治山事業分担金徴収条例の制定について
	議案第17号		農作物冷害対策経営資金利子補給及び損失補償の負担に関する条例を廃止する条例の制定について
	議案第18号		館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について
日程第3	議案第19号		昭和59年度館山市一般会計補正予算(第5号)
	議案第20号		昭和59年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)
	議案第21号		昭和59年度館山市老人保健特別会計補正予算(第2号)
	議案第22号		昭和59年度館山市水道事業特別会計補正予算(第1号)
日程第4	請願第1号		公費負担医療の改善・充実に関する請願書
日程第5	請願第2号		農産物の輸入自由化・枠拡大に反対し、国民

食糧の安定確保を求める請願書

日程第 6 請願第 3 号 水道料金の抑制を求める請願書

開 議 午前 10 時 03 分

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数 23 名、これより第 1 回市議会定例会第 4 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 1、議案第 9 号安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定に関する協議についてを議題をいたします。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 2、議案第 10 号乃至議案第 18 号の各議

案を一括して議題といたします。

### 質 疑 応 答

◎議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1 番議員神田守隆君登壇）

◎1 番（神田守隆君） 議案の第18号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。

市営水道の料金を値上げをしようとするものでありますが、この料金体系のあり方については県営水道と比較検討すると、一般家庭向けの料金は高くなっているのですが、逆に大口使用者に対してはより安くなっています。県営水道に比べて大口使用者には大変優遇した料金体系になっていると言わざるを得ません。

当市の水事情として水が余ってどんどん買ってくれ、そうでもしないと採算がつかないというのならそれもまたやむを得ないことだと思いますが、事情は全く逆であります。昨年の水不足には大変に困ったというのはまだ記憶に新しいところであります。大口使用者に節水を強力に促すことが求められておるのではないのでしょうか。市の水道料金体系はこのことが十分に認識されていないと考えざるを得ません。

料金体系を一般家庭向けには値下げをし、逆に大口使用者にはその分を負担してもらうとした場合、どのようになるのか、その概略を明らかにしたいと思いますので、お答えを願いたいと思うわけであります。

58年の水の使用実績——説明資料の39頁、使用実績表がございます。こうした表に基づきましてお答えを願いたいと思います。

第1点は、一般家庭が使用している口径13ミリの基本料金を現行の350円に据え置いた場合、水道会計の減収は幾らになると見込まれますか。

第2点は、住民福祉の立場から1㍓から8㍓までの従量料金を現行55円から60円に値上げするというのではなく、県営水道並みの45円に値下げした場合の改正案からみて減収額は幾らになると見込まれますか。

以上の結果、月16㍓使用以下の一般家庭の水道料金は値下げというこ

とになろうかと思います。

第3点は、この減収額を501㍻以上の水道料金に負担させるとした場合、501㍻以上の料金は幾らになりますか。

第4点は、こうして大口使用者の負担をさせようとするわけですが、そうした場合、この大口使用者というのはどのような方々になるのか。資料によりますと、501㍻以上の大口使用者というのは月平均で41件、件数比率で0.39%という数字が示されております。この41件の内訳について御説明をいただきたいと思うわけであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、第1点、一般家庭用の基本料金を据え置いた場合の水道会計の減収は幾らになるかという御質問でございますが、58年度実績で試算しますと、1075万2000円の減収となります。

次、1㍻から8㍻を県営水道と同額にした場合、水道会計の減収は幾らになるかという御質問でございますが、1276万2000円の減収となります。

次、501㍻以上の大口消費者にこれらを負担させた場合、料金単価は幾らになるかという御質問でございますが、料金単価316円となります。

次に、501㍻以上の大口消費者の業種別についてという御質問でございますが、その内訳は官公署6件、学校10件、ホテル、保養所12件、病院3件、デパート3件、工場6件、事務所1件でございます。

答弁を終わります。

◎1番(神田守隆君) 一般家庭の16㍻までを現行よりむしろ安くするとした場合に、大口の501㍻以上は316円ということになりますから、これは県営水道の350円に比べてもまだかなり安いという水準で一般家庭向けの料金の値下げができるんだということについてはよくわかります。

そこで、今501㍻以上の使用者の内訳についての御説明がありました。12月の議会するときにも御質問をして、最大の使用者が館山の自衛隊であるというようなお話もございました。この大口使用者の節水についての使用実態の調査をするんだ、こういうようなお話もございました。現在節水

の状況についておわかりになっていることがございましたら御説明をいただきたいと思うわけであります。特に、月当たり9000ℓを使っている館山の自衛隊、市内最大の大口使用者と聞いておりますので、こうした使用実態なんかで節水の上から問題点が現在どのように把握されておるのかお聞かせください。

第2点目として、類推するわけですが、その調査結果を——あのときには4ヵ月先ごろからというようなお話でしたから、まだ正確な全体的な把握というのはされておらないと思うんですが、そういうことで類推ということになるわけですが、大口使用者の使用内容という場合には業種——デパートであるとか、病院だとか、学校だとか官公署あるいは工場だとかこういうようなところからした場合、一般家庭の使用実態とは全然違うだろう。トイレだとかあるいは散水、それから冷却水あるいは洗浄水だとかこういうようなことで大量の水を使う、そういう割合が高いんじゃないかというふうに一般的に類推するわけですが、ということは、逆に言えば一定の施設さえ設置すれば極めて節水が可能であるということでもあろうかと思うんです。

問題は、そのための投資というのが水道水を買うのに比べて経済性があるのかどうか、こういうことに帰着するわけで、やはり政策的に一定の大口使用者に対して高料金政策をとる、政策的に高料金政策をとる、節水を促すという趣旨からこういうことが必要ではないかと思うんです。そういう点からした場合に260円というのは、従来の行きがかりはよくわかります、従来の水道料金との兼ね合いからというのはわかるんですが、しかしそうした節水を促すという点から政策的に高くする必要があるんじゃないかというふうに考えるんですが、この辺260円というのはいかにも不十分なんじゃないかと思うんですが、いかがお考えか。

3つ目には、これは館山市の今後の将来計画の問題——ことし論議されるわけです。将来的な人口増だとか、あるいは産業発展だとか、いろいろな問題を考えるに1つのネックになる問題がやはり水の問題だろう。人口がふえるにしましても、あるいは一定の施設ができるにしましても水の供給ができるのかできないのか、こういうことが大変なネックになる。いいにしろ、悪いにしろ、水の問題というのが館山の地域発展の枠組みをつく



ってしまっている、こういう問題点があろうかと思うんです。

それだけに、こうした水事情の逼迫した、需給関係の緩和ということ、これは大変館山市の将来の展望を考える上からも大事なポイントなんではないだろうか。そういう点からすると水の供給を図るには、需給関係の緩和を図るにはダムをつくるとか、あるいは新しい水源を探すとか、これも大事なことではあります、しかし膨大な——やはりダムということになれば資本投下が必要になるわけです。こういう点からすれば、いわば高料金政策をとって大口使用者の節水を促すというのは1銭もかけずに文字どおり節水を促すことができるならば、これは1銭もかけずにダムをつくるということに匹敵するわけです。そういう点からすれば、大変な——行政改革ということがいわれますけれども、行政改革そのものなんじゃないだろうか、こういうふうに思うわけです。こういう点からもやはり一定の高料金政策というのが大事なんじゃないかなろうかというふうにも考えるわけです。

そういうようなことから、やはり大口使用者には一定の負担をさせていくんだ、そしてそういう中で一般家庭向けの料金に対してはこれは住民福祉の視点を踏まえて県営水道並みに引き下げていく、こういうことも十分可能なんじゃないかなろうか、こんなふうに思うんです。こういう点からみた場合、現在提案されてきている料金体系というのはどうもまだ考えが足りないんじゃないかなと思うんですが、いかがですか。

◎水道課長（石井敏夫君） 水道料金の料金体系につきまして、一般家庭とそれから大口需要者、これらの間に対します御質問でございますが、第1点にございました大口需要者のうち自衛隊の関係でございますが、自衛隊につきましては細部の調査はいたしてございませんですが、隊員数が800人ほど自衛隊にはおるわけでございます。したがって、その800人に対します1日の水量もかなりの水量になります。自衛隊の方では1人当たり330ℓというのが隊の方の基準と申しますか、そういうものもあるようでございますが、それによります使用水量と、それからヘリコプターの洗浄、洗機のための水量——10機ほどございまして、1日に10ℓ乃至15ℓの水が必要だというようなことでございまして、日に直しますと大体300ℓ自衛隊で使っている。

この300ℓの中で、自衛隊では老朽施設という面もありまして、相当漏水の部分もあるようでございます。隊といたしましては先ほど申し上げました1人当たりの基準量といたしますか、その削減に努めるというような努力をするというようなことでございますし、58年度実績で申し上げますと、1月9000ℓでございますが、最近では7500ℓほどに減っているというような実態もでございます。

そのような、大口利用者につきましては、今後とも節水とか漏水の防止とかいろいろ指導してまいりたいと思います。

それから、調査の関係でございますが、これは4月に入りまして大口需要者等の利用実態と申しますか、そのような調査をしたいと思います。

それから、260円の一歩上の段階でございますが、これらは県営水道と比較して不十分じゃないかというような御指摘でございますが、確かに県営水道は350円でございますので、今回の改正案260円と比較しますと価格的には低くなっております。県営水道を取り巻きます千葉市だとか、市原とか、そこらの事業体におきましては350円という県水並みというものを利用しておりますが、他市の状況といたしますか、安房郡の状況等を見まして260円を超えるような段階別で料金を設定しているところはございませんし、また市の中でも260円を超えているのはほんのわずかだというような実態もでございます。

高料金対策といたしますか、そういう面で見ますと、確かに大口に多くもっていただく、そういう趣旨は今回の改正でも逓増制ということで生かされておるわけでございまして、大口が——いろいろ御意見もございましょうが、大口需要者がいるから下の家庭用の人たちが安くできる、いわゆる大口需要者が減ってきた場合、また大きな節減をした場合には水源確保という面から見ますと確かに水の有効といたしますか、次の水源確保のためにそれだけ量が少なくて済むわけですから、非常にありがたいわけでございますが、やはり収益といたしますか、に響いてくるという面が経営の上では大きな問題となってまいります。

ですから、260円という額そのものは他市等の他の事業体等の比較からしてもそう高くございませんし、500ℓ以上だけを特に高くするというようなことは、やはり負担が妥当かどうかという面で疑問があらうかと

思います。

それから、水の将来の需給の関係でございますが、水道事業は御承知のとおり、建設をしてそれを今度は料金で回収するという、そのようないわゆる過程を繰り返して行うわけでございまして、需要が伸びてくるというものに対してはその需要にやはり追いつく投資をしていかなければいけないというふうに考えております。

そういう中で、節水の促進ということは、特に必要事項でもございますし、そういうものを進めながらなおかつやはり将来的には需要に対応できる施設をつくっていかなければいけない水道事業の宿命というようなものを考えております。

総体的には、一般家庭を安く、大口使用者に多く負担してもらうというようなことで、それ相応の配慮をし、今回の改正案をつくったということでございます。

◎1番(神田守隆君) びっくりしたわけで、9000㍓去年使っていた自衛隊が7500㍓になったというのは、去年あんな水不足で大騒ぎしていたときは9000㍓使っていて、最近は7500㍓だというのは一体どうしてなのかなと、先ほどの話だと節水を促してやっているという自衛隊の努力もある、それから漏水もかなりあったようだから、その修繕なんかも行われたんだらう、こういうことだろうと思うんです。それにしても、1500㍓ですか、ちょっとしたあれで1500㍓という節水ができるというのは大変なことですね。さらに今後本格的にやっていくということになればかなりの節水ができるわけです。

だけど、あまり節水、節水というと、先ほどの話だと経営的には大変苦しくなるんだ、それは水道課長さんの立場は、いや使ってもらわなくては困るというのは本音としてはあると思いますよ、収益の関係からいえば。しかし、同時に水というのはそれだけでは考えられないという性格を持っているわけです。

自衛隊は、市内最大のあれですし、市長さんは自衛隊協力会の会長さんという立場でもたしかあられると思うんですが、市民の水需給、こうした関係からいっても自衛隊に節水を強く呼びかけて、漏水なんてあって水がどんどん流れてしまうということはあっては絶対ならぬと思うんです。

私は、大変行政改革という——言葉の意味のいろんな理解がありますが、私なりの理解もありますが、国が行革、行革といっている中で軍事費だけどんどんふえているんです。どうも自衛隊というのはこういうことをみるといわゆる経費の節減なんかについての認識がほかの役所に比べると甘いんじゃないか、そういう危惧をもつんです。

ですから、こういう水なんかについてもちょっと言えば1500ℓも節水できる、こういうことがまだざらにあるんだろうと思うんです。それだけに施設が古いからかなり漏水箇所もあるんでしょう。でも、漏水していても水の料金がそれほど高くなければあまり気にもとめないということがあってはならぬですね。だから、やはり自衛隊なんかに強力にこうした面での節水を促していくという、特に大口使用者のだんとつですから、ほかの事業体に比べてここは。こんな使用実績というのは、特に強力な指導が必要なんじゃないだろうか、指導といいますか、協力という言葉が適切かもしれませんが、そういう点で市長さん特に自衛隊には申し入れなり、協力依頼方、私お願いしたいと思うんですが、その点についての市長さんのお考えをお聞かせください。

それと、もう1点は、水道課長の話では、大口使用者が実態的には料金負担をしている、給水原価が大体170円ぐらいするものを1ℓから8ℓまでは60円で供給しているわけですから、そういう人ばかりだったら赤字になるのは当たり前です。ですから、その限りでは全く正しいんで、収益という関係からいえば大口使用者にもっと使ってもらった方がいいわけです。

ところが、館山市の総合的な立場、水の問題に関しての、こういう点は今やはり節水を強力に促すということが将来の発展の方向だとか、そういうことから必要なんじゃないか。だとすると、料金の考え方についてもやはりそういう収益の問題だけではなくて、例えば高料金政策——大口使用者に高料金政策をとった、350円で県水並みにとりました。そうしたら40万ℓも使っていた大口使用者の50ℓ以上の使用水量が例えば半分になってしまった。それは収益の面からすれば大変大きな穴があくんですね。しかし、それは館山市全体の水需給の関係からいえば大変に新たな発展の余地を水の供給の面からは可能性を開くわけです。

そういう視点から見た場合には、単に水道会計の収益のそろばん勘定だけではこの問題を論じられないんじゃないか。そういう点で節水が進んで赤字になったということは結構なことだと思うんですが、その点いかがですか。

◎市長（半澤良一君） 自衛隊に関しましては、ただいま水道課長から御答弁申し上げましたように、節水の協力をお願いして今申し上げたような結果になっているわけでございます。

それから、大量消費者に対する、大口消費者に対する高料金対策を強力に進めるべきだというお話でございますけれども、それが水道事業の将来の発展、館山市全体の発展に影響するんだということは基本的にはわかりますが、やはりこれ独立会計でございますので、赤字が出ることは結構なことではございませんので、やはりどこかでそれを負担しなくてはならないことになります。結局大口消費者が減るということは、やはり一般家庭からの料金を上げてそして赤字を埋めなければならないということになるわけでございます。赤字になることは結構なことでは必ずしもないというふうに考えます。

そればかりでなくて、われわれの日常生活、市民生活というのは高度、複雑化してまいりまして、端的に言えば公共下水道をやればまず5割程度は——各家庭がそれを利用して浄化槽を使うということになると、5割程度の水の消費がふえるだろうといわれております。そういう意味から言いますと、現況のままでは設備の、施設の面で不十分でございますので、今後水源開発を十分やっていかなければならない、そういう状況になっているわけでございます。

将来、館山市の、あるいは産業発展、あるいは市民生活の向上のためには、現状ではあまりに不十分だというふうに考えます。今後とも水資源の開発には努力をしていかなければならない、そういう意味でやはり水道会計の健全化を図っていかなければいけないというふうに考えているわけでございます。

◎1番（神田守隆君） 市民の立場からいきますと、ダブルパンチなんですよ。ダブルパンチというのは、水の給水は時間制限された。そうしたこの次値上げだということなんです。給水制限されることがない、ちゃんと

水が供給されるようになる。そういうふうになって水道会計が赤字になった、だから何とかしてくれという、料金も少し値上げもがまんしてくれということであるならば、それはまた1つの考え方があるかと思うんです。だけれども、そうじゃないわけです。

だから、一定の高料金政策をとって、そのために大口使用者の節水が進んで赤字になった。高料金者はこんなに高い水道代を払っている、そのために節水が進んで赤字になったんで、それで申しわけないけれども市民の一般家庭の分も値上げしてくださいよと、これはやはりそういう話でくるんならそれはそれでまた理解の仕方が違うと思うんです。

だから、私は、まずやることは大口使用者に節水を促す高料金政策が必要なんじゃないかなと、そういう意味での水道会計、そういう段階になっての水道会計——これはいつまでも赤字をほったらかしておけというふうには私は言っているわけじゃないんです。今の段階ではやはり水需給が逼迫しているという、こうした問題が焦眉の課題だし、これが今水道問題の最大の問題としてまずやはり解決を図らなければならない、そういう視点からやはり高料金の、一定の水準に対する高料金対策というのが必要だし、それがまずとるべき手段じゃないか、そのことによって当面住民の水道料金は値上げどころか、値下げさえ可能だということが先ほどの御説明の中にあるわけです。ですからそういうふうに思うんですが、全然そういった考慮、考えなざる余地はございませんか。

◎市長（半澤良一君） 先ほど水道課長からも御答弁申し上げましたように、県水は確かに1㍓から10㍓まで今回の値上げから比べますと安いわけですが、また大口消費者に対しては高いわけですが。やはり、そのほかの市、水道事業体と比べて決してそう高い数字ではございません。一般消費者に対しても高い数字ではございませんし、大口消費者についても260円以上のところというのはそう多くないわけですが。現在の段階では最も妥当な体系だというふうに考えております。

◎議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わります。通告をしない議員で御質疑ございませんか。

◎27番（安西益男君） ちょっとお尋ねいたします。

今議会で大分水道問題、料金を含めての質問がかなり多かったわけでご  
ざいます。それで何が何でも、何でも反対だということじゃなく——先だ  
っての2番議員さんの質問の中に、市を中心とした28事業体——県下で  
すね、それに対して57年度は20事業体に県の補助があった。それから  
4カ所については独自で市の補助を出した。あと残りの市については出し  
ていない。県下の大半が県あるいはまた市の補助金が出ているという実態、  
57年度にかけては。そうしますと、大体がやはり補助金を出している  
というところが大半なんです。

よく当市でいわれるところの独立採算制、さらにまた受益者負担とい  
うことがあまりにも厳しく表に出ておるといふ、そういう感じを受けるわ  
けです。

そうしまして、57年度見る限りは他の24は、市を中心とした事業体  
はほとんどその補助金を出しているということになりますと、これは受益  
者負担の原則に違反するのか、そういう考えを持つわけです。しかし、館  
山市の場合も他市に比べて幾分か、できるならば、59年の県の補助金  
の助成はたしか5700万ぐらいの助成だったと思います。それに対して  
市の補助も同額というふうに認識するわけでございます。これがなくなっ  
てしまうということになりますと、県の補助もなく、また市の補助もな  
くなるということになりますと、先ほどのお話のようにダブルパンチ、全く  
市民の立場というものが大変だ、そういうものを感じるわけでございま  
すので、そういった点からいえば補助をしているところ多いわけですから、  
県の補助なり市の補助なりしているところが圧倒的に多いわけですから、  
そういった点でとにかく県からは60年度はなくなったにしても、市の補  
助は同一の5000万若干のそういう補助は出すべきである。

極端に、県もなくなる、県にならって市もなくしてしまうんだとい  
うことでは、ちょっとあまりにも極端なとり方ではないかというふうに感  
じるわけでございますので、その点の見通し。

それから、先だっの質問に「検討する」というお話でございましたけ  
れども、普通は、一般的には「検討する」ということにつきましては、そ  
の要望に対する検討というふうに認識するわけでございますが、検討とい  
う意味合いをもうちょっとお聞かせください。

◎水道課長（石井敏夫君）　ただいまの御質問の中で、補助金の関係についてお答え申し上げますと、確かに県費補助金を57年度で受けた事業所、いわゆる市、広域圏で見ますと、20件は補助を受けておった。同時に20件は繰り出しもしておったわけでございまして、4事業団体につきましては補助がないけれども、独自に出しておったという御説明を先日の議会で申し上げました。

その4事業体につきまして、電話でございしますが、照会いたしましたところ、そのうち木更津市が含まれておりましたが、それは繰り出しておらないということで、57年の資料の欄の記入の相違というものがございましたので、3件だというふうにこの場で訂正させていただきたいと思います。

その3件につきましては、そのうちの1件は県営水道の料金改正によりまして、59年度はもうそこで打ち切ってしまったということでございますので、現在では2件、2事業体残っているというようなことでございますが、それぞれ特殊な事由等がある一般会計から繰り出しているというような状況でございまして、単に営業助成ということではないということでございますので、その点御報告いたしておきます。

◎27番（安西益男君）　いずれにしても、5件のところが出していないということでございます。大体は補助が出ているということでございますから……。

そういった点で、「検討する」という、市長さんおっしゃいましたが、検討ということはどういうふうな意味の検討ということですか。それをひとつお聞かせいただきたいと思います。

◎市長（半澤良一君）　この前、「検討する」と申し上げましたけれども、その検討というのは、それぞれやはり各水道企業体が特殊な事情があるんじゃないか、そういうことを検討すると申し上げたわけで、ただいま御報告申し上げたとおりでございます。

◎27番（安西益男君）　先ほど申し上げましたように、検討というと、大体こちらの要望に対して検討しようというのが今までの認識なわけですから、2番議員さんの一般会計から補助したらどうかということに対しての検討ということかなというふうに感じたわけですが、いずれにして



も県下の57年度で見る限りは助成しているところが非常に多いわけでございますから、そういったひとつ助成を、当市もひとつ市民に還元する方向で行政の方向を進めていただきたい、このように思うわけでございますが……。

それと、水道料金の未納の大口はどのくらいの大口があって、どのくらいの最高はあるのか。こういったこともやはりこの際確認しておきたい、こう思うわけでございますけれども、その点どうでしょうか。

◎水道課長（石井敏夫君） 未納の御質問でございますが、一番大きな未納といいますと、過年度、現年度含めまして400万ほどの未納の業者がございます。それは御承知のことと思いますが、ホテルをやっておられる方でございます。

水道事業の場合に、未納額が割合と少ないわけでございますが、年度末におきまして翌年度に繰り越すいわゆる未収金、数値的にはものすごい7000万とかというような数字になりますが、これは3月検針の調定を4月が納期だということで1期分が丸々といっていいほど翌年に繰り越される、そういう未収でございまして、過年度未収というのは大体600万程度でございますので、たくさん大口未納者がいるということではなくて、幾つか大口の方がいらっしゃるという程度でございます。

◎議長（石井 正君） 他に御質疑ございませんか。（「いいですか」と呼ぶ者あり）4回目だから。約束3回ですから……。

◎27番（安西益男君） それでは、先ほどのひとつ御検討願って、一般会計の方の考慮を願いたいと思います。

◎2番（田沢勝信君） 2点ほどお尋ねしたいと思いますが、水道の問題の関係なんです、議案第18号、この件に関しまして2点ほどお伺いたしますけれども、先日も館野、九重の未給水地域の解消問題と、あと値上げの問題、これが直接関連するのかなという質問があったわけで、その中で議員さんの方からも金がだぶついているんじゃないかというような発言もございましたので、この点を正確を期するために質問したいんですが……。

1つは、議案書を見ますと、値上げ前の資本勘定を見ますと、資金的収入の中に企業債8億計上されているわけです。ところが、値上げ後の資本

勘定を見ますと、6億の企業債が計上されているわけです。その一番下、差引収支見ますと、値上げ前は4億4500万、これが差引収支で不足するということで内部留保で補てんしていくんだという考え方があるわけです。ところが、値上げ後になりますとこの差引収支が6億を超えます、その額を内部留保で補てんするということになっているわけで、実際はこの内部留保資金というのが収益収支の方の減価償却の蓄積だと思うんです。そういう意味でこの改定案だけ見てみますと、非常に値上げと未給水区の解消が関連があるんじゃないかというふうに、私ども企業会計素人でありまうからそういうふうに思うわけです。現実には内部留保資金で補てんしていくわけですから、で、内部留保資金は費用に勘定されると思うんです。そういう意味で正確なこの辺の事情について説明を願いたい。

あわせて、現在、内部留保資金が幾らあるのか、それもきちんと正確に説明を願いたい。それが第1点です。

2点目は、先ほど安西議員さんの方からも質問が出ましたが、市独自に特殊な事情があって3団体ですか、この団体が水道会計に繰り出しを行っている。特殊な事情ということなんですが、この特殊な事情についてもう少し詳しくどういうことで一般会計から繰り出しをしているのか、検討された内容をここできちんと説明を願いたい。

といいますのは、市の水道料金の問題と三芳の水道問題、非常に関連して大きな問題があると思っていますから、当然私は格差が出てはいけないということで、こういう同じ市民が使う水道料金に格差が出る、それを一般会計から繰り出して解消するということも私は館山市の特殊事情じゃないかというふうに考えているわけです。そういう意味で先ほども申されましたが、3つの自治体が水道会計に一般会計から繰り出しを行っている、この特殊事情をもう少し詳しく御説明を願いたいと思います。

以上、2点よろしく申し上げます。

◎水道課長（石井敏夫君） 御質問にお答えをいたします。

第1点の、館野、九重地区に係ります、現行でいきますと資本金的収入として企業債を8億、それから改定案によりますと6億というようなことでございますが、これにつきましては、館野、九重の給水をするために、この資金の収支計画でもございますように、3カ年で10億8000万を今

ここで予定をいたしておるわけでございます。

そのうちに、現行で言いますと、8億起債しなければ損益ベース、資本収支の差引、いわゆる資金的にうまくいかない、8億借りませんと。といひますのは、内部留保資金も10億に対しまして8億ですから不足しておりますが、それらは一時的に内部留保資金が補てんされる。現行料金で3カ年据え置きますと損益勘定でそれぞれ赤字が出ますのでいわゆる補てん財源としてふえていかない。したがって、余計起債をしなければならない。

ところが、改定案につきましては、損益ベースでもって収支の均衡を図るという改定案でございますので、先ほど言われました内部留保資金となります減価償却費、これらが建設関係へと充当できるということでございまして、現行料金でいきますと昭和62年におきまして資本的の収支の不足額が4億2500万ほどになります。それから改定でまいりますと6億1260万ほどに相なるわけでございます。

そういうような関係で起債に依存して起債を多くするか、内部留保をどれだけ充てるかというようなことでございますが、料金改定案によりますと赤字にならず単年度、単年度でもほぼ均衡してまいりますので、起債額が少なくできるというようなことでございます。

それから、減価償却の関係でございますが、当然期間配分をして費用としてみるというようなことでございまして、これが内部留保として蓄積されるわけでございますが、昭和58年度決算末におきます内部留保資金は3億7200万でございます。中には減価積立金と建設改良積立金、それから翌年度繰越未処分利益剰余金、それと従来の損益勘定の繰越金という内容をもっておりますが、そのような額でございます。

それから、2点目の、一般会計の繰り出しをしている3事業体についての内容でございますが、電話で照会した程度のことでございますので、細部ははっきりまだいたしておりませんが、3市町村は具体的に申し上げますと銚子市と市原市と君津市です。

銚子市の場合ですと、東総広域水道企業団というのがございますが、そこから受水をして将来的な水需要に対応する——現在、受水はまだしてないわけでございますが、東総広域水道企業団のいわゆる建設費、運営費、それらにつきまして水道事業体である銚子市に負担金がかかってくる、そ

の負担金につきましての2分の1を助成している。いわゆるそのような内容でございます。

それから、君津市につきましては、簡易水道の統合によりまして、簡易水道、簡易水道を結びます連結管、配水管等に相当な額を要した、その連結のためにいわゆる不採算地区というような面もあるんで、その企業債の利子分を補助しているということでございます。

それから、市原につきましては、58年までは繰り出しておりましたが、59年につきましては県営水道が料金単価を上げた、いわゆる料金改正を行ったというようなことで基準が上がりましたので、打ち切ったということだそうでございます。

◎2番（田沢勝信君） 2点目なのですが、正直いってよくわからないわけです。

ここに、銚子と君津の予算書があるんですが、59年度なんですけれども、銚子の場合、受水している関係でそれで負担金がかかってくるんだという御説明だと思うんですが、私が知りたいのは受水をするためにあえて市が一般会計から繰り出しするわけです——しているわけですね。銚子で言いますと、消防費のところで水道事業会計負担金が300万、衛生費の関係で見ますと同じく水道事業会計補助ということで1000万超えていますね。

これが特殊な事情といった場合に、館山みたいに料金格差をなくすとか、あるいは受水をしなければ市民に対して迷惑がかかるだとか、そういう事情があって独自の基準を設けて補助をしていると思うんです。その辺をもう少し詳しくわかりやすく説明を願いたいということなんですよ。

受水をしているから負担金で出しているんだということだけ言われてもよくわからないわけです。受水しなければ市民がどうなるかとか、困るだとか、事情があると思うんですよ。その辺を詳しく説明をしてほしいということなんです。

◎水道課長（石井敏夫君） 一般会計の予算の中で消防費から繰り出しの関係があるというようなことですが、これは市町村の消防に要する経費、消防のいわゆる消火栓等に要する経費については一般会計が負担すべきだという、これははっきりと公営企業法の中に出ておりますし、そ

ういう関係でこれは消火栓等の負担金であるというふうに考えております。

それから、衛生費につきましての繰り出しでございますが、1000万  
余というようなことでございますが、内容的には調査してございませんし、  
それから一般会計からどういう——もう少し詳細に繰り出しの内容を知り  
たいということでございますが、先日は電話で照会したのみで細部につい  
てはまだ調査してございませんので、これらにつきましてはこれからさら  
に聞いてみたいというふうに考えております。

○議長（石井 正君） 以上で質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となっております議案第10号乃至  
議案第18号の各議案は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり  
それぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

#### 議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第3、議案第19号乃至議案第22号昭和5  
9年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

#### 質疑応答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります  
通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案の第19号昭和59年度館山市一般会計補正  
予算第5号についてお尋ねをいたします。

私の質問は議案書によって説明させていただきます。

まず、24号であります。コミュニティセンター費ということでコミュ  
ニティ用地購入費1億8101万1000円が計上されておりますが、こ  
れに関連をいたしまして、用地購入の購入契約についてはどのようになっ  
ているのか御説明をいただきたいと思いますと思うわけであります。

次に、コミュニティセンターの西側に都市計画道路の計画があるわけで

ありますが、この土地はその道路からの進入路に当たるのではないかと推察するわけでありましたが、この都市計画道路についてはどのような見込みがございますか。この計画が将来にわたるものであるとするならば、その間この土地については何か有効な利用計画等お考えであるかどうか。

以上、この点についてお聞かせ願いたいと思います。

次に、27番であります。社会福祉総務費の中に社会福祉振興基金助成金ということで400万円が計上されております。この400万円の助成金はどのような考え方によって計上されたものでありますか。社会福祉振興基金そのものについてもいまい少し御説明いただければと思います。

次に、30番であります。生活保護費の中の扶助費ということで、各項目で扶助費の減額が1950万6000円ということで、約2000万に近い扶助費の減額の補正であります。各項目にわたりまして御説明は結構であります。特に生活扶助費というものを例に取り上げまして、724万2000円の減額になっているわけでありましたが、説明書によりますと生活保護の関係ではこの生活扶助費予算見込みに対して今年度の人員的に290人の見込みで済みそうだ、こういうことが補正の理由のようではありますが、この生活保護行政についてのここ数年の動向について、受給人員の動向を御説明をいただきたいと思うんです。

次に、32番、じん芥処理費の需用費ということで1422万5000円。新しいじん芥処理場が完成をいたしましてそれぞれ運転が始まったわけで、それだけにこうした運転費用の面からどうなのか大変に注目をするところであります。こうした中で見ますと、電気の使用料がかなり大幅に507万ということで減額になったわけでありましたが、これにはどうした事情でこんなに減額が出たのか。その辺で今後とも当初の見込み違いであって、かなり当初考えていたよりもこのじん芥処理場というものは、電気料は当初予算に比べますと少なく済むものだ、こういうような理解をしてよいものかどうか、この辺についてのお考えをお聞かせ願いたいと思うわけでありまして。

33番に、し尿処理費であります。需用費で1000万からの減額、そのうち消耗品費ということで650万、燃料費ということで350万、それぞれ減額となっているわけでありまして。し尿処理費についてはすでに

運営等については前年度の実績等も踏まえて、かなり安定的に予算も見込まれるのではないかと考えているわけではありますが、そうした中で1000万からの減額補正というのは、いろいろな創意工夫によりましてこうした需用費の大幅な減額をもたらしたのかということで、大変結構なことだと率直に受け止めてよいのかどうか、この辺についての御説明をいただきたいと思うわけであります。

最後に、この補正予算に関連をいたしまして、昭和59年度一般会計の総括的な決算見込みについては現在どのように考えておられるか御説明をいただきたいと思うわけであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第19号一般会計補正予算のうち、コミュニティセンター用地購入費についてでございますが、これは市開発公社が用地買収を進めてきたところでございますが、今回買収いたします土地はコミュニティセンター西側の未造成地のうち、有権者が裁判のため買収ができなかったもの、あるいは土地の交換、代替地等の関係から買収が遅れていたものでございます。購入面積は6759㎡、15筆、地権者6名でございます。単価につきましては、買収年度が違いますので一律ではありませんが、平均いたしまして1㎡当たり2万6780円でございます。当面の利用計画につきましては、コミュニティ広場として多目的に利用してまいりたいと考えております。

また、造成地内には、都市計画道路船形大賀線が縦断することで都市計画決定がなされておりまして、このうち南町から主要地方道館山白浜線までの間を県営事業として施行していくよう県に要望を続けてきているところでございます。

次に、社会福祉振興基金についてでございますが、この制度は館山市社会福祉協議会におきまして社会福祉の推進に伴う自主財源を確保するため、昭和58年度末より館山市社会福祉振興基金を設置し、市民の善意による寄附金等によりその造成を図っていくものでございます。市ではこの基金づくりの醸成を図るべく昭和59年度以降館山市社会福祉協議会に対し市

民からの寄附金と同額を助成し、5年間で5000万円を目標として積み立てていくものでございます。

次に、生活保護費の動向についての御質問でございますが、過去5年度の年平均の受給者の推移を見ますと、55年度356人、56年度361人、57年度367人、58年度298人、59年度290人となっております。

次に、じん芥処理関連事業及びし尿処理関連事業についての御質問でございますが、じん芥処理費のうち光熱水費、庁用消耗品費、燃料費等、清掃センターの維持管理に係る経費につきましては、新しい施設でございまして過去のデータがございませんでしたので、予算編成に当たりましては運転条件を示しましてメーカーから提出させた資料により計上いたしました。が、稼働後における電気料等の所要料が少なく済んだものでございまして、予想される残額を減額しようとするものでございます。

また、備品等修繕料及び自動車等借上料でございますが、当初清掃センターにつきましては7月試運転、8月末本稼働の予定でございましたが、最悪の場合、3カ月程度の遅れも考え、生ごみ埋め立て用の重機等修繕料及び重機等借上料を予算計上したわけでございますが、清掃センターが予定どおり稼働いたしましたため減額しようとするものでございます。

次に、し尿処理費の補正額1060万4000円のうち、主なものといましては、し尿処理用の薬剤費650万円と汚泥焼却用燃料費350万円でございますが、薬剤費につきましては処理工程の中で非常に高度な浄化がなされましたため、積算いたしましたもののうち使用量が大幅に節約できたものであり、燃料費につきましては重油価格の値下がりによるものでございます。

次に、59年度決算見込みについてでございますが、歳入歳出ともまだ流動的な要素が多くございますが、現時点で推計いたしますと、歳入につきましては100億円、歳出につきましては98億3000万円で、実質収支といたしまして1億7000万円程度と見込んでおります。

答弁を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ご



ございませんか。

◎4番(日下君敏君) 1点だけお聞きしたいんですが、議案の40頁に公園費の中で工事請負費が公園整備工事請負費で減額の1255万4000円という項目がございます。これを説明資料で見えますと、城山公園その他公園整備で城山と諏訪山ですか、で1200万、城山の減額745万4000円、こうなっておりますが、これをさらに歳入の市債の方で見えますと、都市計画整備事業として城山公園整備事業債が430万減額ということになっております。こういったことの関連で、せっかく城山公園を整備拡充しようとする折りになぜこのような減額になったのか、簡単に御説明願いたいと思います。

◎経済部長(吉岡政雄君) お答えいたします。

城山の公園整備事業につきましては、当初予算におきまして6281万円をお願いしたところでございますが、実績におきましては5535万6000円で終わるのではないかとというようなところから今回745万4000というものを減額補正でお願いしたわけでございます。

実は、この公園事業と申しますのは、国庫補助があるわけでございまして、この事業の中で国庫補助相当額の事業は5000万円というのが当初あったわけでございますが、国等のヒヤリングの段階で4000万円にしてほしい、こういうわけで国庫補助対象事業が1000万円減になったわけでございます。そのような結果から事業費が縮小されたわけでございますが、この事業につきましては60年度以降も続けてまいることになっております。

以上でございます。

◎議長(石井正君) 以上で質疑を終結いたします。

#### 委員会付託

◎議長(石井正君) ただいま議題となっております議案第19号乃至議案第22号昭和59年度館山市一般会計及び特別会計補正予算案は、お手元に配付してあります議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

### 請願書の上程

◎議長（石井 正君） 日程第4、請願第1号公費負担医療の改善・充実に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（石井 正君） 朗読は終わりました

### 請願書の趣旨説明

◎議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（2番議員田沢勝信君登壇）

◎2番（田沢勝信君） 請願第1号公費負担医療の改善・充実に関する請願書を御紹介をさせていただきます。

本請願は、昨年12月議会でも同趣旨の請願が出されております。また、再びこの請願は退職者の方が自主的に請願署名1000余名を添えて請願をいたしたものであります。こういうことから見ましても公費負担医療の改善、充実に関する市民の要望は根強いものがあると言わざるを得ません。

そういう立場から請願の内容を以下御紹介いたしますが、この請願事項は大きく分けて2つに分かれております。それは、高額医療費の委任払い制度、あるいはまた国民健康保険の保険料の問題、あるいははり、灸の医療費の補助金を自治体独自として出していただきたい、その3点は当自治体に対する請願であります。

また、次の5点、国民健康保険法の改正による社会保険、共済組合等の本人の1割自己負担をもとに戻して、被用者保険を10割給付に復活させるように政府へ意見書を出していただきたい、あるいはまた健康保険等の家族、国保の被保険者の給付率を早急に8割に引き上げていただきたい、あるいは老人医療無料化制度を復活させていただきたい、あるいははり、灸の医療費について保険が適用できるように政府へ意見書を上げていただきたい、あるいはまた国民健康保険が政府の補助率が45%から37%にその給付補助が減ったために大変な国民健康保険税の住民負担がふえておりますが、この政府の補助率を上げていただきたい、以上5点が政府に対

して意見書を上げるように採択をお願いしたい、そういう内容のものでございます。

昨年12月にも議論をされておりますが、多くの市民の公費負担医療の改善を求めるそういう要望に対しまして、議員の皆さま方の満場の御賛同を得たいと思ひまして、ここに請願書の紹介をさせていただきます。

以上です。

◎議長（石井 正君） 説明は終わりました。

#### 委員会付託

◎議長（石井 正君） 本請願書につきましては、文教民生委員会に付託をいたします。

#### 請願書の上程

◎議長（石井 正君） 日程第5、請願第2号農産物の輸入自由化・枠拡大に反対し、国民食糧の安定確保を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

#### 請願書の趣旨説明

◎議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（2番議員田沢勝信君登壇）

◎2番（田沢勝信君） 請願第2号農産物の輸入自由化・枠拡大に反対し、国民食糧の安定確保を求める請願書の紹介をさせていただきます。

今、私たちの回りには、お店屋さんに参加しても、スーパーに参加しても食糧がふんだんに置かれているという中で、今の食糧の需給がどのようになっているのか大変関心が薄まっていると言わざるを得ません。

そういう中で、本請願を見ますと、実に日本国内ですでに主要食糧の需給率が30%を割る事態になっており、しかも世界の主要穀物の輸出可能数量の実に21%を日本が輸出によって頼っている、そういう事態であり

ます。

そういうことを考えまして、最近改めてアメリカ及びＥＣ諸国からわが国に対する農畜産物の輸入自由化、枠拡大の要求が高まりつつあります。これ以上農産物の輸入自由化、枠拡大をすればわが国の農業危機にさらされるばかりか、私たち市民の食糧の安定供給という面からいっても非常に困難を来します。

したがって、本請願の趣旨であります農産物の輸入自由化、枠拡大に反対し、国民食糧の安定確保を求める請願書に対しまして、議会の御理解を賜りたく、ここに本請願を紹介をいたします。

以上です。

◎議長（石井 正君） 説明は終わりました。

#### 委員会付託

◎議長（石井 正君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に付託をいたします。

#### 請願書の上程

◎議長（石井 正君） 日程第６、請願第３号水道料金の抑制を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

#### 請願書の趣旨説明

◎議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（２番議員田沢勝信君登壇）

◎２番（田沢勝信君） 請願第３号水道料金の抑制を求める請願の紹介をさせていただきます。

すでに議会でも論議が種々ございましたが、今私たち、館山市内で働く勤労者の状態といえ、昨年末から、最も大きな民間の企業であります、

一時金が分割で支給されたり、あるいはまたそれ以下の小さな零細の会社で働くパートや臨時工の皆さんに対しては、数多くが県の最低賃金を下回る支給しかされていない、そのような現状もございます。そういう現状の中でこの3年間勤労者の可処分所得は対前年比に対してマイナスになっております。そういう中での水道料金の値上げは私たち市内の勤労者の生活に大きな負担になってまいります。そのような事情を御理解いただき、今回の水道料金の値上げに対して抑制をしていただきたい、そのような請願でございます。

皆さんの満場の御理解を得て、この請願が採択されることを祈願いたします。以上をもって、私の水道料金の抑制を求める請願の御紹介にかえさせていただきます。

◎議長（石井 正君） 説明は終わりました。

#### 委員会付託

◎議長（石井 正君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に付託をいたします。

#### 日程の追加

◎議長（石井 正君） この際、お諮りいたします。

文教民生委員会において継続審査中の請願第8号と畜場存続に関する請願書について、請願人代表者から撤回したい旨の申し出がありました。

この際、請願第8号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

よって、この際請願第8号撤回の件を日程に追加し、議題とすることに決しました。

#### 請願書の撤回について

◎議長（石井 正君） 請願第8号と畜場存続に関する請願書撤回の件を議題といたします。

お諮りいたします。ただいま議題となりました請願第8号撤回の件につきましては、これを承認することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。

よって、請願第8号撤回の件についてはこれを承認することに決しました。

延 会 午前11時33分

◎議長(石井 正君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。

よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明3月12日午前10時開会とし、その議事は昭和60年度各会計予算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第9号乃至議案第22号
- 1 請願第1号乃至請願第3号
- 1 日程追加・請願第8号撤回について